ＥＶ向け部品量産へ

サンコール菊池　来年末に本格稼働

自動車部品メーカーのサンコール（京都市）は22日、子会社のサンコール菊池（菊池市）で、新たに電気自動車（ＥＶ）向け部品の製造を始めると発表した。約４億円を投資して生産ラインを導入し、２０２４年末ごろの本格稼働を目指す。自動車業界では脱炭素に向けた電動化の動きが加速しており、ＥＶ向け需要の高まりに対応する。

サンコール菊池では、主に自動車のエンジンやブレーキ制御などに使うばねを製造している。ＥＶ向けに、大きな電流を流すことのできるバスバーと呼ばれる配電用の部品を新たに生産。既存建屋（約６９００平方メートル）内にバスバー製造ラインを整備するほか、敷地内に製品保管用の倉庫を新設する。

同社は１９７３年設立。19年時点の従業員数は約90人。新たに約50人の雇用を計画している。

サンコールは現在、愛知県豊田市の広瀬工場でバスバーを生産。国内自動車メーカーからの大型受注があり、ばね製造で培った加工技術に強みを持つ菊池での生産を決めた。バスバー事業の25年度の売上高を、22年度比２・７倍の40億円と見込む。

（山本文子）